

このまちが出来上がるまでの物語

美馬市誕生までのあゆみ

母なる大河、吉野川の河岸段丘に拓

け、自然の恵みが豊かにあふれる美馬市は、古墳跡である国指定史跡「段の塚穴」をはじめ、多くの史跡が点在する歴史の地です。その昔は立石山と呼ばれていた「剣山」は、修行の場として多くの山伏が登り、それにより尊い文化も運ばれてきました。また、源平合戦に敗れた平氏は、みやびな都の文化を山里に伝えました。

吉野川の悠久の流れは、古代からさまざまな物流を支え、藩政時代にはその流れにより、この地が藍の集散地として隆盛を極めます。神社や名刹、見応えのあるつだつの町並みなど、風情

ある美馬市でもあります。

市内にはオランダ人技術者ア・レーケの指導によって造られた堰堤や、九州帝国大学初代外科部長である三宅速教授との交流が記されている「アインシュタイン友情の碑」もあり、国際的な歴史も感じることが出来ます。

そうした先人たちが培ってきた、貴重な歴史文化や自然を継承してきた美馬市。新市となるまでのあゆみをふり返れば、明治22年(1889)に市制町村制施行により、美馬郡脇町・江原村・岩倉村・郡里村・重清村・三島村・六吹村・口山村・半平山村・麻植郡木屋平村が誕生したことにはじまります。大正13年(19

24)には六吹村が六吹町へ、昭和2年(1927)には半平山村が名称変更により

古宮村となり、翌年には江原村が江原町、昭和15年(1940)郡里村が郡里町、昭和26年(1951)岩倉村が岩倉町となりました。昭和30年(1955)には三島村・六吹町・口山村・古宮村が合併して六吹町となり、昭和32年(1957)郡里町・重清村が合併して美馬町に、翌年1958年には脇町・江原町・岩倉町が合併して脇町となりました。その後、昭和47年(1972)木屋平村が麻植郡から美馬郡に編入されました。

そして、平成17年(2005)3月1日、旧美馬郡内の脇町・美馬町・六吹町・木屋

平村が合併して、新市「美馬市」が誕生しました。

美馬市の礎には、このように綿々と続くこの地の歴史があります。誇り高い先人のあゆみを胸に、手を携えて未来へと向かう美馬市民。これまでのあゆみに負けない尊い伝統と文化を築くことを願い、美しいふるさとを守り育てます。



[市章]

グリーンは美馬市の「m」で里から広がる森を、ピンクは太陽を、ブルーは吉野川と青空を表しています。太陽と森で人を、空と清流の輪で人と文化と自然の調和を表し、心なごむやすらぎのまち「美馬市」をイメージしています。



穴吹町上空より西を望む(平成18年11月)